



中塚先生の愛犬【びびん】&【ジー太】

びびん 好き嫌いがなく、なんでも食べてくれます。だから、もしジー太が食べなくてもびびんが食べてくれるんですよ。



ジー太 お肉が大好きで小麦などが苦手。なので、肉の含有量が多いものを選んでます。そして、フードを変える際には鼻先にフードを持って行って、好きか嫌いかを確認しています(笑)

「おいしいー」の近道。
愛犬の好み、ご存知ですか？
愛犬のために選んだフードだからおいしく食べてもらいたい。飼い主さんならそう思いますよね？「そこ、おいしい」を見つけたらヒント。愛犬の好きな食材は何か？逆に苦手なものは？おいしそうに食べているかイヤイヤ食べているのか、毎日の食事タイムで愛犬の好きな味やにおいのもの、例えば、魚系が好きなか肉系が好きなのかなど、好みがわかってくると思います。それがわかればフードを選ぶ際にも探しやすいですよ。
飼い主さんだからわかる、第六感を信じましょう！
与える量やフードの種類を選ぶ際にも、「太ったかな？」「痩せたかな？」「毛がパサパサしてきたかな？」と一緒に暮らしている飼い主さんだからこそ感じる第六感を信じて、調整したり種類を変えたりしてあげればいいと思います。もちろん、与えるものは品質の良いものがいいですが「コレじゃなきゃダメ」とか思い込んだり、神経質になりすぎたりせずに、もっと自由に柔軟に、愛犬がおいしそうに楽しそうに食べている姿を想像しながら選んでみてはいかがでしょうか。



どのフードがいいのか、わからない...

なかなか食べてくれない...

で、もう悩まない！

中塚先生流

愛犬のためのフード選び & 食事を楽しくする方法

「しつけ教室」は「飼い方教室」とおっしゃるドッグトレーナーの中塚先生。今まで多くのわんちゃんとお飼い主さんに充実した暮らしの提案をされています。愛犬が楽しく健やかに暮らすためには「食事」は大切な生活習慣である、とおっしゃる中塚先生にフードや食事についてお話をうかがってきました。

愛犬の“食事”をもっと楽しくする工夫。

好き嫌いのある子 & 食べない子へ

- 少し温めておいをたたせる。
- ゆでた野菜など手づくり食をトッピング。
- 「おいしいね、おいしいね」など、声をかけながら。

ジー太の場合 お味噌汁の味噌を入れる前のおだしと具をトッピングしています。少食で偏食気味のジー太。少食だけど、「たぶんほしくないんだわ」と思って、ムリに食べさせようとは思わず、カロリーが足りないかな？と思うときは高カロリーのフードを選んで、少ない量でも栄養が摂れるようにしています。



いっぱい食べたい子 & 食いしん坊の子には

- デコボコのある食器などでゆっくり食べさせる。
- 1日の量を、朝・おやつ・昼・おやつ・夜の5回に分けてみる。
- 低カロリーの食品(おからなど)でかさまし。

びびんの場合 食いしん坊なので、できるだけゆっくり食べるように大きめのフードボウルを使っています。これだと粒が広がるので「盛る」より食べにくくなり、一粒ずつゆっくりと食べるようになります。この方法はがつく子やむせやすい子にもおすすめです。

「出っぱなし」はやめましょう。

好きな時に食べるだろうから...とフードを出っぱなしにしておくこともあるかと思いますが、それでは一日の中の区切りがなくなり、楽しみという特別感もなくなります。生活のリズムの中で朝、「おはよう」と言って出して、食べなかったら引き上げる。夜も同じように、「ごはんよー」と出して食べなかったら引き上げる。そうすることで、「食事」で生活のリズムをつくっていきます。問題行動で悩んでいるおうちでは、この「出っぱなし」が多いようです。



中塚先生ポイント！

- *今日は病院に行った...などニガテな事をがんばった日やお誕生日やクリスマスといったイベントには、大好物やいつもより贅沢な食材をトッピングしてスペシャルごはん。
 - *お出かけをしてたくさん動いた日には、ちょっと多めに、逆に1日のんびりした日は少なめに...
- あれこれ工夫している私も楽しいし、それはうちの子たちにも伝わっているようです。もちろん、ドライフードだけの日があってもOK！がんばり過ぎないことが大切です。

基本はもちろん、忘れずに。

*原材料や品質が確かなこと。

愛犬の健康な体をつくるものなので、使われている素材や品質は気にしたいもの。高ければいい、というものではありませんが、原材料などはチェックしましょう。

*愛犬の現在の年齢や犬種を考慮しましょう。

子犬期、成犬期、高齢期では必要な栄養素もカロリーなども変わりますので、年齢ステージは大切なポイントです。アレルギーを持っているかどうか、体型は肥満

気味なのかどうか等、体質や体型などが判断材料になります。また、大型犬なのか、小型犬なのかで消費カロリーが違ってくるのでよく確認しましょう。



中塚 圭子先生 Profile

しつけ教室「ドルチェ・カーネ中塚」運営。これまで指導してきた犬は約4500頭。ペイイ動物看護専門学校講師、神戸市動物愛護推進員を務める。JAHA(日本動物病院福祉協会)認定ドッグトレーニングインストラクター。JKC(ジャパンケンネルクラブ)公認訓練士。

メリハリのある生活がいいね



「食べるの大好き！」そんな風に愛犬に思ってもらえるといいですね。そこで、愛犬の食事タイムを楽しくするには、例えば遊んでいたり自由にしている時、ごはんの時間になると「ごはんですよー」と声をかけて、マテの状態を「いただきます」、そして飼い主さんからの「はい、どうぞ」で食事を始めて「ごちそうさまでした」で終わるというリズムをつくるんです。このちょっとしたやりとりが愛犬の生活にメリハリをつけ、大切なふれあいの時間となって食事タイムが楽しみみのひとつになっていくんですよ。さらに、いつものフード

「まずは、メリハリをつけて「食事タイム」を楽しくしましょう。」
一緒に遊ぶ時間やお散歩が楽しい！と同じように、「大好きな飼い主さんからごはんをもらうのがうれしい！」
も温めたりトッピングをしたり、少しの工夫でおいしさも愛情もアップ！
まずまず充実していきます。また、好き嫌いのある子も、「これおいしいね」って声をかけていると食べることがあるんですが、それは飼い主さんが「おいしいね」って言うとき愛犬もおいしく感じるようになったり、飼い主さんが喜んでくれるから食べようと思ったりするからなんです。だから、高齢犬になつて食欲がなくなつたときにも「おいしいね、おいしいね」って声をかけていると、食欲もないのに飼い主さんの気持ちにこたえようとして食べたりする。それは、食事タイムが大好きだったり、飼い主さんと犬のしっかりとった絆の証だと思えます。